ONKYO®

9チャンネルアンプ

PA-MC5500

取扱説明書

お買い上げいただきましして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切
に保管してください。

特長

- ■全チャンネル ２００W ６Ω
（２０Ｈｚ～２０,０００Hz）
全高調波歪率 ０.０５%以下
- ■THX™ Ultra2™*1規格に準拠
- ■再生周波数の広帯域化を図るWRAT（Wide（ワイド） Range（レンジ） Amplifier（アンプリファイアー） Technology（テクノロジー））搭載
- ■３段インバーテッドダーリントン回路を採用
- ■トロイダルタイプのトランスを採用した強力な電源回路
- ■全てのチャンネルに音質コンデンサを採用
- ■低インピーダンス設計の為に、銅バスプレートを採用
- ■金メッキスピーカー端子/XLR入力端子および真鍮削り出し金メッキRCA入力端子採用
- ■大電流に対応した大型トランジスタを採用
- ■銅箔厚70μの基板を採用し、大電流に対応、低インピーダンス化を実現
- ■入力信号が無く、無操作の状態で一定時間経つと、本機が自動的にスタンバイ状態に移行する、自動電源オフ機能搭載
- ■AVコントローラーとの組み合わせにより、別室で異なるソースを楽しめるゾーン2/ゾーン3機能搭載*2
- ■AVコントローラーとの組み合わせにより、精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能*2
- ■12Vトリガー入力端子
- ■アルミ製フロントパネル
- ■着脱式電源コード

*1 THX ULTRA2

THXおよびTHXロゴは、THX社の商標または登録商標です。

*2 お使いのAVコントローラーに依存します。

目次

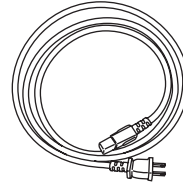
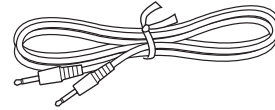
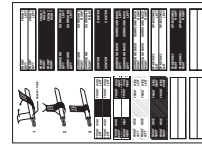
はじめに

操作の概要

接続について

その他

付属品

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。（　）内の数字は個数を表します。

電源コード…（1）

モノラルミニプラグ付ケーブル（1.8m）…（1）
（12Vトリガー端子の接続に使用します。）

スピーカーコード用ラベル…（1）

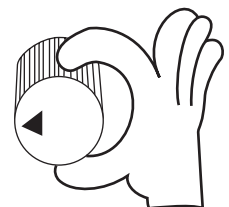
取扱説明書（本書）…（1）

保証書…（1）

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）

ユーザー登録カード…（1）

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

⚠警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりぶら下がったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

⚠注意

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になることがあります。

ぬれ手禁止

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■持ち運びは2人以上で行う

必ずする

本機は非常に重いので、持ち運びは２人以上で行ってください。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

使用上のご注意

本機をお使いになる前に、「安全上のご注意」（4〜6ページ）とあわせて、下記の注意事項もよくお読みください。

通風について

使用中、本機はかなり熱くなります。過度な温度上昇は、アンプの性能を損なうことがあります。
過度な温度上昇を防止するには、空気の流れを良くして、放熱をすることが大切です。

ご注意

- 本機を空気がこもりがちな狭いラックや、押し入れには入れないでください。
- 本機を暖房機などの熱源から離して設置してください。
- 本機の上下に他の機器等を重ねて置かないでください。
- 本機のカバーには換気用の通風孔があり、内部の温度上昇を防ぐように設計されています。これらの通風孔は絶対にふさがないでください。

棚に収納する場合は、棚の背面の上下に換気口を開け、通風をよくするか、ファンを使って空気を循環させてください。目安としては、音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱すぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

設置する場所と空間

本機を設置する場所の床や、特に棚やラックに収納する場合は、重さに耐えうるだけの強度があることを確認してから設置してください。
本機の背面には、電源コードをはじめ、その他の接続ケーブルのための適切な空間が必要です。これらのコードやケーブル類を無理に折り曲げたり、力をかけたりせずにすべてのケーブルを収納するには、10センチメートル以上の空間が必要です。
本機をテレビやラジオの近くに設置しないでください。テレビやラジオに雑音や映像の乱れが生じることがあります。

電源コードについて

付属の電源コード以外は使用しないでください。付属の電源コードは本機のために特別に設計されたものですので、他の機器には使用しないでください。
壁コンセント以外のコンセントには接続しないでください。

接続するスピーカーについて

スピーカーはインピーダンスが4Ω以上のものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。

お手入れ

フロントパネル、リアパネル、カバーは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと、乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなどは使用しないでください。傷がついたり、文字が消えたりすることがあります。
引火性または可燃性の洗剤も使用しないでください。
また、リアパネルの入出力端子のお手入れに、接点復活剤は使用しないでください。樹脂が劣化することがあります。

その他

次のことは絶対にしないでください。

- 放送設備用や楽器用のアンプとしては使用しないでください。
- 本機の電源として、発電機、DC/ACコンバーター、AC/ACコンバーターやトランスを使わないでください。
- 入力端子または入力ケーブルの先端を指で触れて、通電を確かめるようなことは絶対にしないでください。感電の危険性だけでなく、スピーカーの故障の原因となります。
- 出力端子どうしや、出力端子とリアパネルをショートさせないでください。
- カバーを外さないでください。
- 小さな子どもの手の届く所に設置しないでください。

雷が鳴ったら

電源プラグやカバー、また本機に接続している機器類に触れないでください。

早見操作ガイド

ここでは、接続と操作の流れを説明します。
実際に接続や操作をするときは、次ページ以降の説明も必ずお読みください。
早見操作ガイドの内容は、ソース機器とAVコントローラー（プリアンプ）の接続など、システムの他の接続が完了している場合の手順です。

1. **AVコントローラーのボリュームを下げる**
   電源を入れたとき突然大きな音が出るのを防ぐため、音量は絞っておいてください。
2. **スピーカーを本機に接続する**
   スピーカーコードを使って接続します。
   各コードの極性（＋）/（－）は正しく接続してください。接続を間違えると、定位感が損なわれたり、位相が逆になったりします。
3. **INPUT SELECT（入力切り換え）スイッチで、XLRコネクター（バランス入力端子）またはRCAコネクターを選ぶ**
   AVコントローラーと本機を接続するケーブルのタイプに合わせて切り換えます。本機には各チャンネルごとにXLRコネクターとRCAコネクターがあり、ケーブルのタイプやAVコントローラーの機能に応じて切り換えることができます。

ご注意

本機の電源を入れた状態でINPUT SELECTスイッチを切り換えないでください。

4. **AVコントローラーを本機に接続する**
   手順3で選んだ入力方式に合わせて、AVコントローラーの出力を本機の対応する入力端子に接続します。

ご注意

もう一方の入力端子には何も接続しないでください。

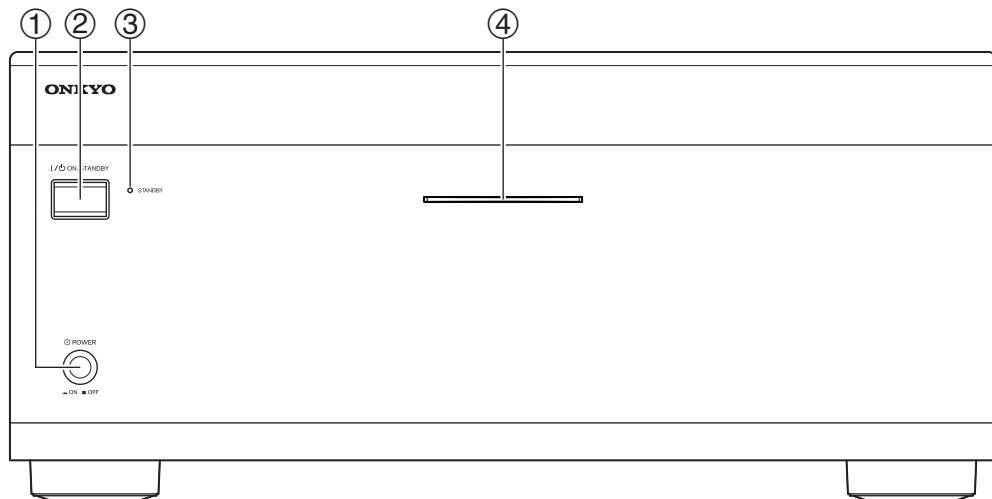
5. **付属の電源コードを本機と壁コンセントに接続する**
   プラグはしっかり奥まで差し込んでください。
6. **POWERスイッチを押す**
   このスイッチを押すと、STANDBYインジケーターが赤く点灯します。
7. **ON/STANDBYスイッチを押す**
   このスイッチを押すと、ONインジケーターが青く点灯します。
   12V TRIGGER IN端子にケーブルを接続している場合は、接続する機器の電源オン/オフに連動します。STANDBYインジケーターが赤く点灯している時は、信号待機状態です。
8. **AVコントローラーのボリュームを徐々に上げる**

ご注意

POWERスイッチを押したあと、音が出るまで約10秒かかります。その間はボリュームを上げないでください。

以降の操作については、AVコントローラーおよび接続機器の取扱説明書をご覧ください。

前面パネルと後面パネル

前面パネル

① POWERスイッチ
本機の主電源をオン/オフします。OFFにすると、本機の電源は完全に切れます。オンまたはスタンバイ状態にするには、ONにしてください。

② ON/STANDBYボタン
本機をオン/スタンバイします。

ご注意

本機の電源をオフにしたあと、再度電源をオンにするときは、電源をオフにして数秒以上たってから電源をオンにしてください。

③ STANDBYインジケーター
このインジケーターが赤く点灯しているときは、12Vトリガー端子からの信号待機状態です。

④ ONインジケーター
このインジケーターが青く点灯しているときは、本機の電源が入った状態で、演奏が可能です。

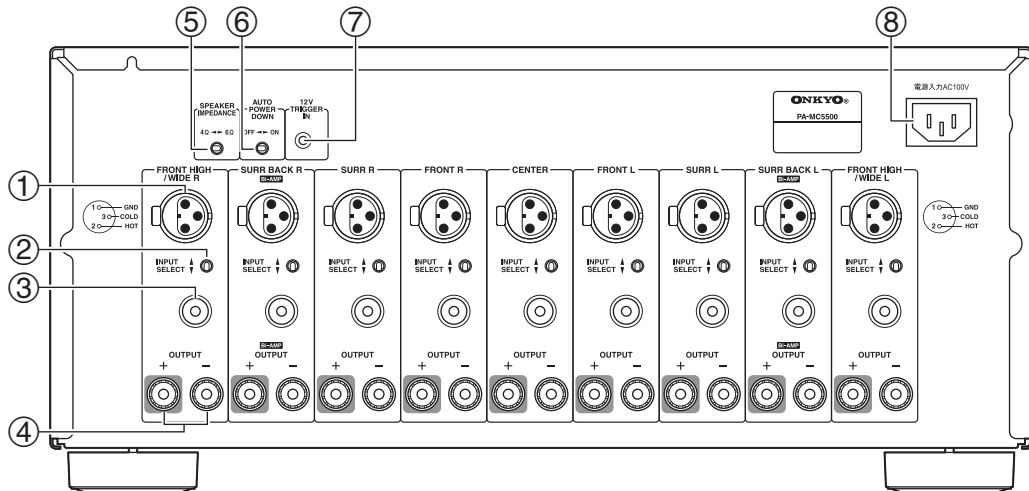
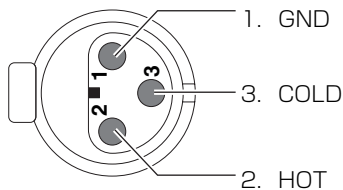
ご注意

- POWERスイッチがONのとき、どちらのインジケーターも点灯していない場合は、本機の電源コードが正しく接続されているか、あるいはヒューズが切れていないか、お確かめください。それでも点灯しない場合は、電源を切り、電源コードを外してお買い上げ店またはオンキヨーコールセンターへご連絡ください。
- STANDBYインジケーターが赤く点滅している場合は、本機の保護回路が働いています。スピーカーコードがショートしたり本機の温度が上昇しすぎると保護回路が働きますので、その場合は一度電源を切り、原因を取り除いてから再び電源を入れてください。それでも改善されない場合は、電源を切り、電源コードを外してお買い上げ店またはオンキヨーコールセンターへご連絡ください。

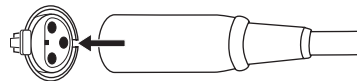
後面パネル

本機は9チャンネルの独立したパワーアンプで構成されており、各アンプはそれぞれの入力信号に対して、同じ音質と同じ性能を実現します。ご使用の際には、各チャンネルに音声信号を入力し、スピーカーを接続してください。

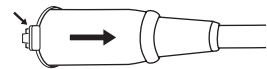
ご注意

- 電源コードは、他のすべての接続が終わるまで接続しないでください。
- 接続する機器に付属の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源を入れた状態（POWER ▬ ON）で入力端子または出力端子に接続することは絶対におやめください。
- 電源を入れる前に、必ずAVコントローラー（プリアンプ）のボリュームを完全に絞ってください。

① **バランス入力端子（XLRコネクター）**
バランス出力端子を持つAVコントローラーを接続します。

グランド端子コネクター：シャーシ接地

ピン配列は上記のとおりです。（AES規格準拠）
接続時は、AVコントローラーの取扱説明書をご覧になり、出力端子のピン割り当てが本機に対応していることをご確認ください。オンキヨー製AVコントローラーPR-SC5508は対応しています。

出力端子にケーブルを接続する
ピンの位置を合わせてカチッと音がするまで端子を差し込みます。ケーブルを軽く引っ張り、完全に接続されているかどうか確認してください。

出力端子からケーブルをはずす
コネクターのボタンを押しながら、矢印の方向にケーブルを引っ張ります。

PUSH部分を押しながら、引っ張る

ご注意

- バランス接続にするときは、INPUT SELECT（インプット セレクト）スイッチを上側（バランス入力端子側）に切り換え、市販のXLRタイプのバランスケーブルを使って、AVコントローラーと本機を接続します。
- RCA入力端子（RCAタイプ）には、何も接続しないでください。

② **INPUT SELECTスイッチ**
各チャンネルの音声入力端子を選びます。
上側に倒すと、バランス入力が選択されます。
下側に倒すと、RCA入力が選択されます。

ご注意
- 電源を入れた状態では、入力を切り換えないでください。
- 選択していない方の入力端子には、何も接続していないことをお確かめください。

③ **アンバランス入力端子（RCAタイプ）**
AVコントローラーのRCA出力端子（RCAタイプ）を接続します。

RCAタイプ

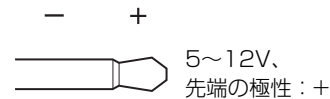
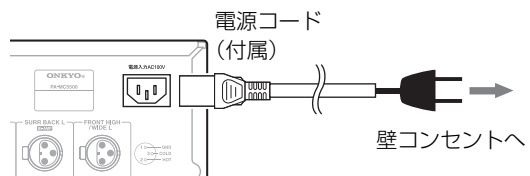
ご注意
- この接続をするときは、INPUT SELECTスイッチを下側（RCA入力端子側）に切り換え、市販のオーディオ用ピンコードを使って、AVコントローラーと本機を接続します。
- バランス入力端子には、何も接続しないでください。

④ **OUTPUT端子（スピーカー出力）**
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカー、左右フロントハイ/フロントワイドスピーカーを接続する端子です。
FRONTスピーカー端子とSURR BACKスピーカー端子には、それぞれフロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーを接続できます。また、バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることもできます。「バイアンプ接続をする」をご覧ください（➔ **16**）。

⑤ **SPEAKER IMPEDANCEスイッチ**
スピーカーのインピーダンスを選びます。
4Ω：スピーカーのインピーダンスが4Ω以上、6Ω未満の場合に選びます。
6Ω：スピーカーのインピーダンスが6〜16Ωの場合に選びます。

⑥ **AUTO POWER DOWNスイッチ**
自動電源オフ機能がオンのとき、入力信号がない状態で本機を3 時間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態に移行します。この場合、本機に信号を入力しても、電源は自動的に入りません。再び本体の電源を入れるには、ON/STANDBYボタンを押してください。
本機後面パネルのAUTO POWER DOWNスイッチで、機能のオン/オフを設定することができます。
初期設定：オフ

ご注意
- 12Vトリガー接続で本機をご使用のときは、自動電源オフ機能は働きません。
- 自動電源オフ機能によってスタンバイ状態に移行する10秒前から、本機のONインジケーターが点滅します。
- ソースによっては、再生中にスタンバイ状態に移行することがあります。

⑦ **12V TRIGGER IN端子**
他機の12Vトリガー出力端子と接続し、本機をコントロールします。接続した他機の電源オン/スタンバイに連動して本機の電源をオン/スタンバイします。
付属の3.5mmモノラルケーブルを使って、他機の12Vトリガー出力端子と接続します（市販のケーブルもご利用いただけます）。
3.5mmモノラルケーブルの先端の極性は下記のとおりです。

⑧ **AC INLET（AC電源入力）コネクター**
付属の電源コードを本機のAC INLETコネクターに接続してから、壁コンセントに接続します。

- 壁コンセント以外のコンセントには接続しないでください。
- 付属の電源コードは、本機以外の機器には使用しないでください。
- 電源コードは、壁コンセントに接続した状態で本機のAC INLETコネクターから抜かないでください。感電する恐れがあります。電源コードは、接続時には最後に壁コンセントに接続し、抜くときは最初に壁コンセントから抜いてください。
- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。

接続をする

スピーカーを接続する

まずお手持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。
サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。
また、接続するスピーカーの許容入力が小さいときは、大音量は出せません。過大入力により、スピーカーが壊れることがあります。

ご注意
- スピーカーの接続が完了後、AVコントローラーの電源を入れ出力チャンネルを設定してください。

スピーカーコード用ラベルを取り付ける

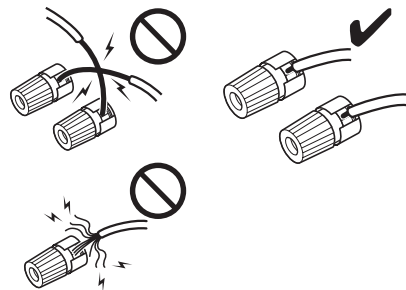
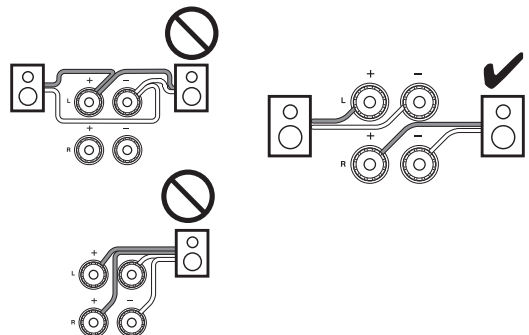
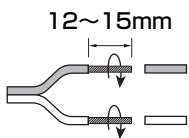
スピーカー端子のプラス（+）端子はすべて赤色です（マイナス（ー）端子はすべて黒色です）。

スピーカー	色
左フロント	白
右フロント	赤
センター	緑
左サラウンド	青
右サラウンド	グレー
左サラウンドバック	茶
右サラウンドバック	ベージュ
左フロントハイ、左フロントワイド	白
右フロントハイ、右フロントワイド	赤

付属のスピーカーコード用ラベルも色分けされています。上記の表を参照して、各スピーカーコードのプラス（+）側に取り付けてください。ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続するだけで、スピーカー接続を行うことができます。

バナナプラグのご使用について
スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

スピーカー接続時の注意事項

以下の注意事項をお読みいただいてから、スピーカーを接続してください。
- 本機には、インピーダンスが4～16オームのスピーカーを接続してください。インピーダンスが4オーム以上6オーム未満のスピーカーを1台でも接続するときは、必ず「SPEAKER IMPEDANCEスイッチ」を「4Ω」（➔ 11）に設定してください。小さいインピーダンスのスピーカーをお使いの場合、アンプのボリュームを長時間に渡って大音量に設定して使用すると、内蔵されている保護回路が作動する場合があります。
- 接続は電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- スピーカーに添付の取扱説明書をご覧ください。
- 必ず、プラス（+）端子はプラス（+）端子と、マイナス（ー）端子はマイナス（ー）端子と接続するようにしてください。間違って接続すると、逆位相になり再生音が不自然になります。
- スピーカーコードが、必要以上に長かったり細かったりすると、音質に影響を与えることがあります。そのようなコードは使用しないでください。
- 4または5台のスピーカーで使用する場合、左右サラウンドスピーカーをSURRスピーカー端子に接続してください。SURR BACKスピーカー端子またはFRONT HIGH/WIDEスピーカー端子には接続しないでください。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの金属芯を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。

- スピーカー端子に2本以上のコードを接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。

1 スピーカーコードの被覆を先端から12～15mm剥き、芯線をしっかりよじる

2 スピーカー端子をゆるめる

3 芯線を完全に挿入する

4 スピーカー端子をしっかり締める

各スピーカーは下図のように接続します。サラウンドバックスピーカーを1台しか使用しない場合は、SURR BACK L端子に接続してください。

ご注意

- フロントハイまたはフロントワイドスピーカーを使用する場合は、AVコントローラーの電源を入れ使用するスピーカーの設定をしてください。
  詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

SPEAKER IMPEDANCE
4Ω ◄► 6Ω
4Ωまたは6Ω
を選びます。

FRONT HIGH /WIDE R
SURR BACK R
SURR R
FRONT R
CENTER
FRONT L
SURR L
SURR BACK L
FRONT HIGH /WIDE L

右サラウンド
スピーカー

右フロント
スピーカー

センター
スピーカー

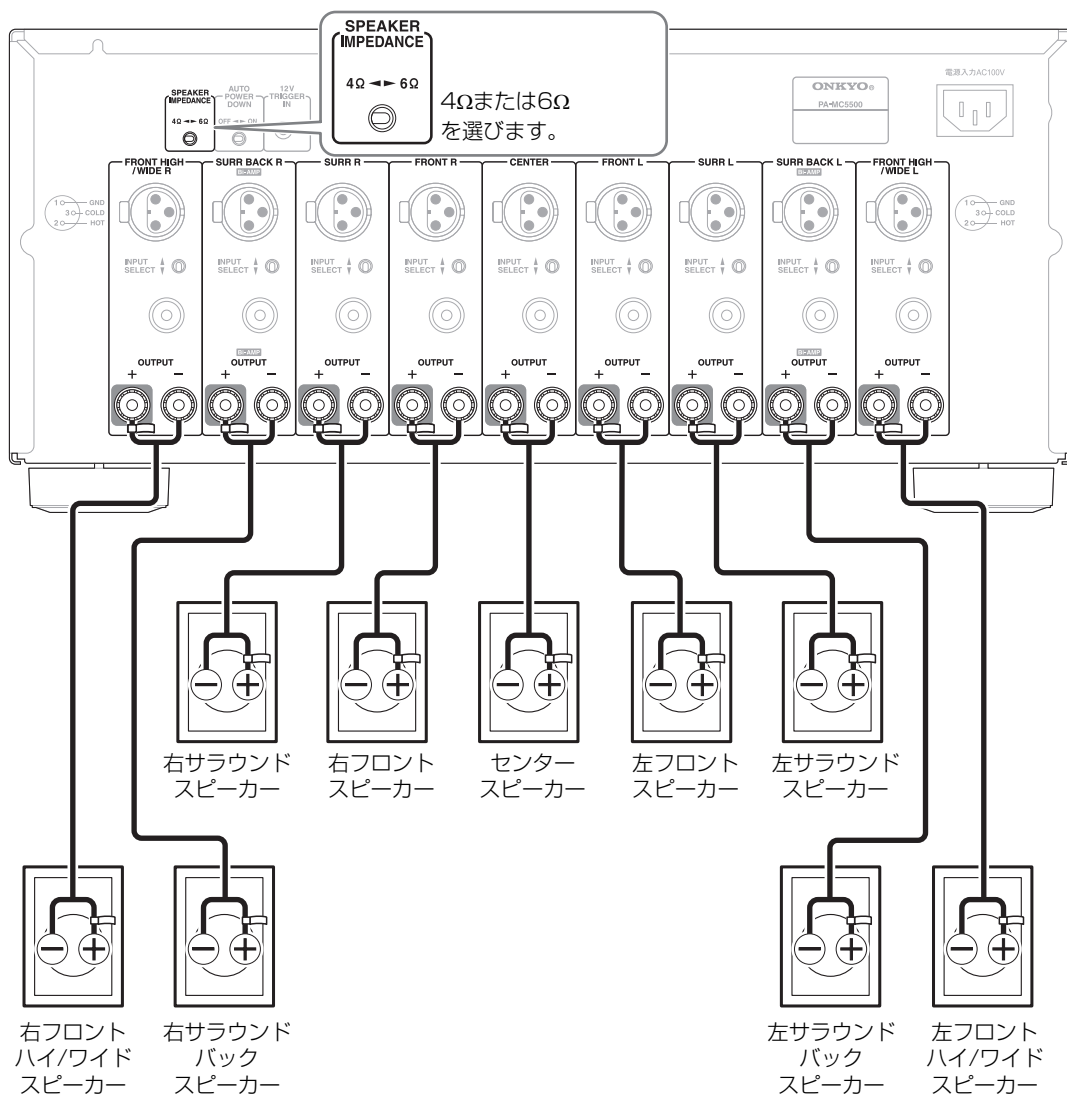
左フロント
スピーカー

左サラウンド
スピーカー

右フロント
ハイ/ワイド
スピーカー

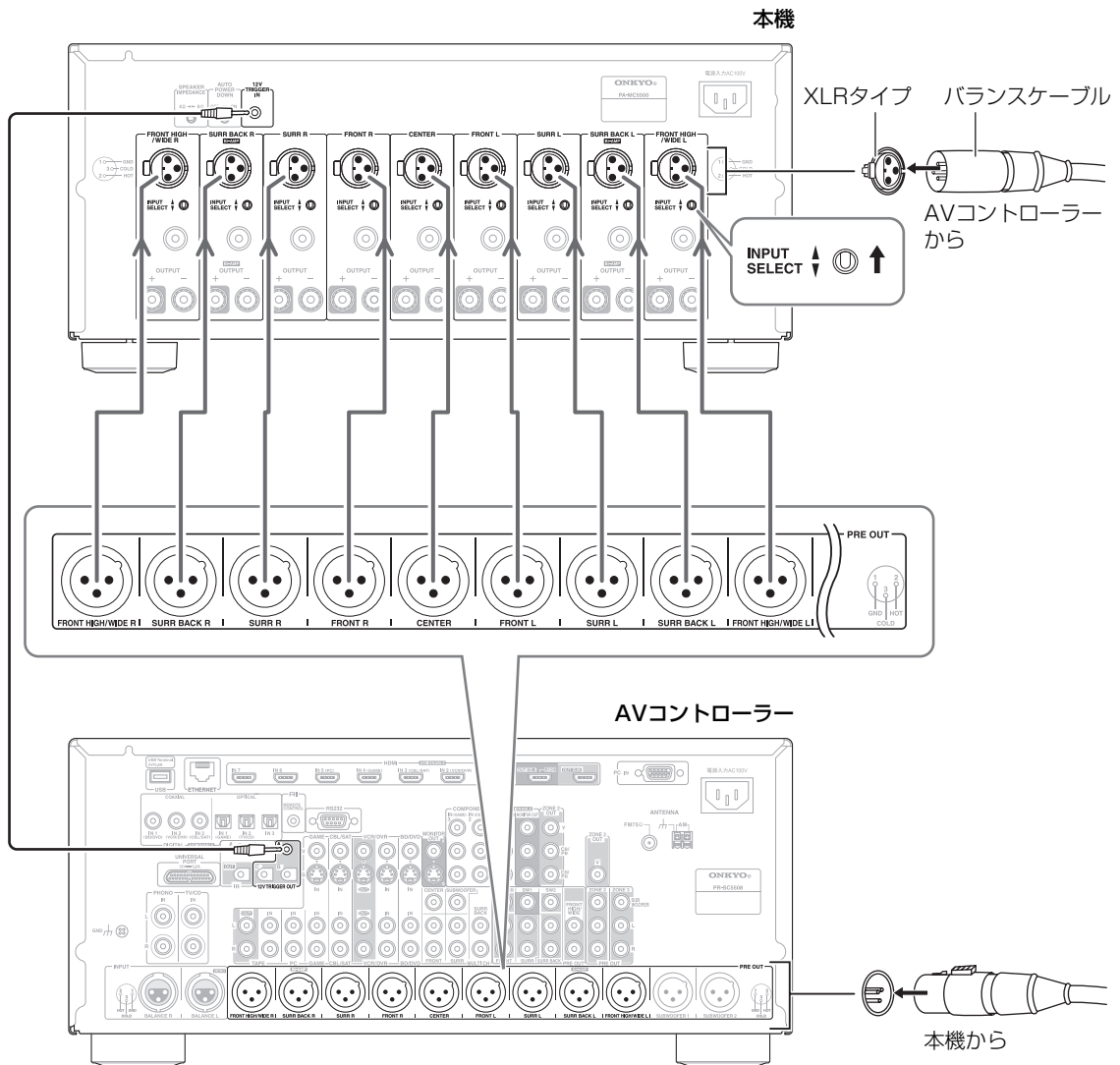
右サラウンド
バック
スピーカー

左サラウンド
バック
スピーカー

左フロント
ハイ/ワイド
スピーカー

XLR型出力端子と接続する

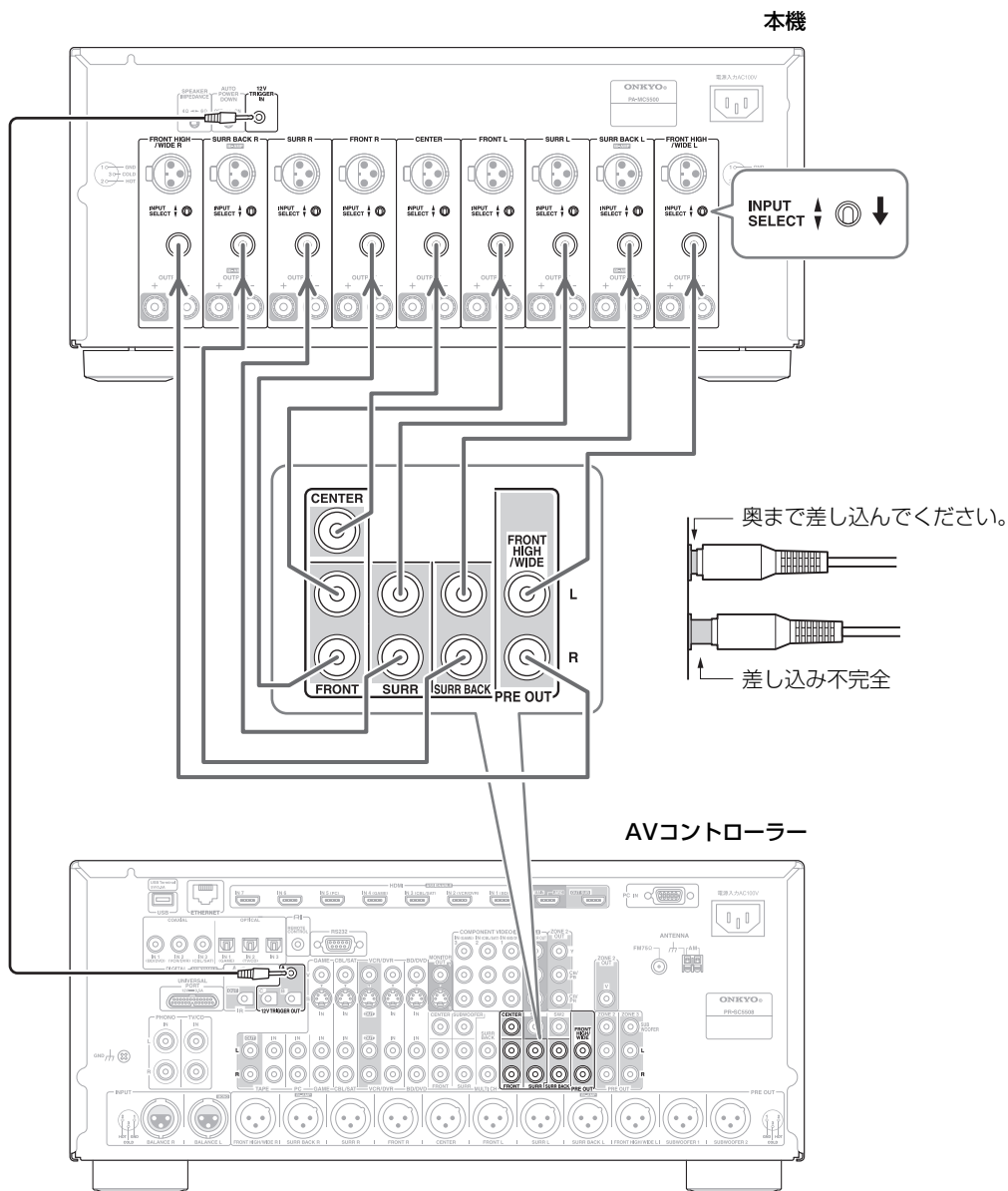
下図は、別売のオンキヨー製AVコントローラー PR-SC5508と本機の接続例です。
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- バランス入力端子をご使用になる場合は、RCA入力端子には接続しないでください。
- バランスケーブルは、広がらないようにしてください。ノイズが入る原因になります。

RCA型出力端子と接続する

下図は、別売のオンキヨー製AVコントローラー PR-SC5508と本機の接続例です。
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- RCA入力端子をご使用になる場合は、バランス入力端子には接続しないでください。
- ピンコードは広がらないようにしてください。ノイズが入る原因になります。
- プラグをしっかりと奥まで差し込んでください（差し込みが不完全な場合、ノイズまたは故障の原因になります）。
- 音声ケーブル、ビデオケーブルを電源コード、スピーカーケーブルに近づけないでください。ハムや雑音の原因になります。

バイアンプ接続をする

FRONTスピーカー端子とSURR BACKスピーカー端子には、それぞれフロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーを接続できます。また、バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることもできます。

ご注意

- お使いのAVコントローラーがバイアンプ接続に対応しているか確認してください。
- バイアンプ接続をする場合は、メインルームは最大7.2チャンネル再生になります。
- バイアンプ接続をする場合は、サラウンドバックスピーカーは使用できません。
- バイアンプ接続の場合は、FRONTスピーカー出力端子にフロントスピーカーのウーファー（低音）端子を接続し、SURR BACKスピーカー出力端子にフロントスピーカーのツイーター（高音）端子を接続します。
- バイアンプ接続が完了したら、AVコントローラーの電源を入れ、バイアンプの設定をしてください。詳細については、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- RCA接続によるバイアンプ接続もできます。

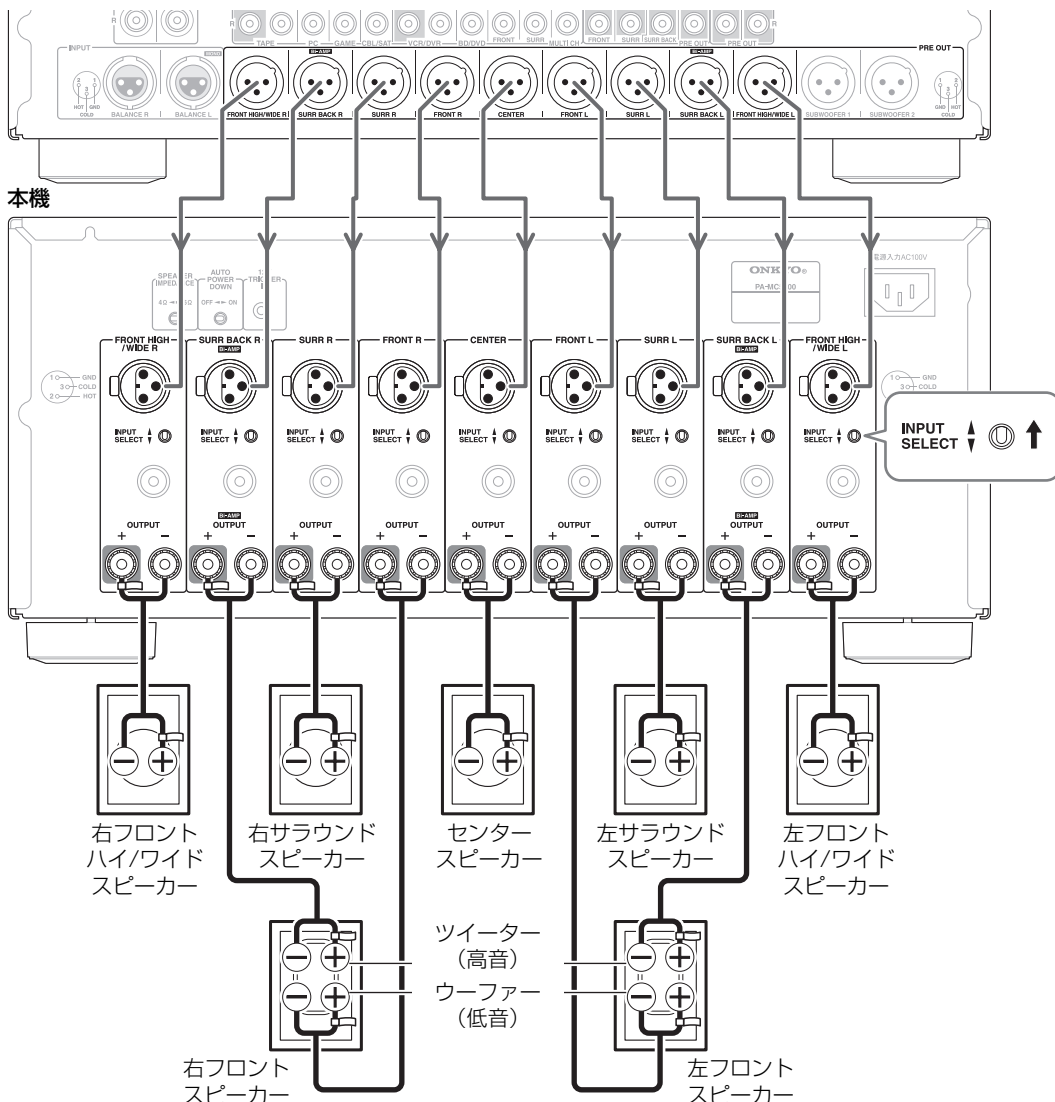
重要

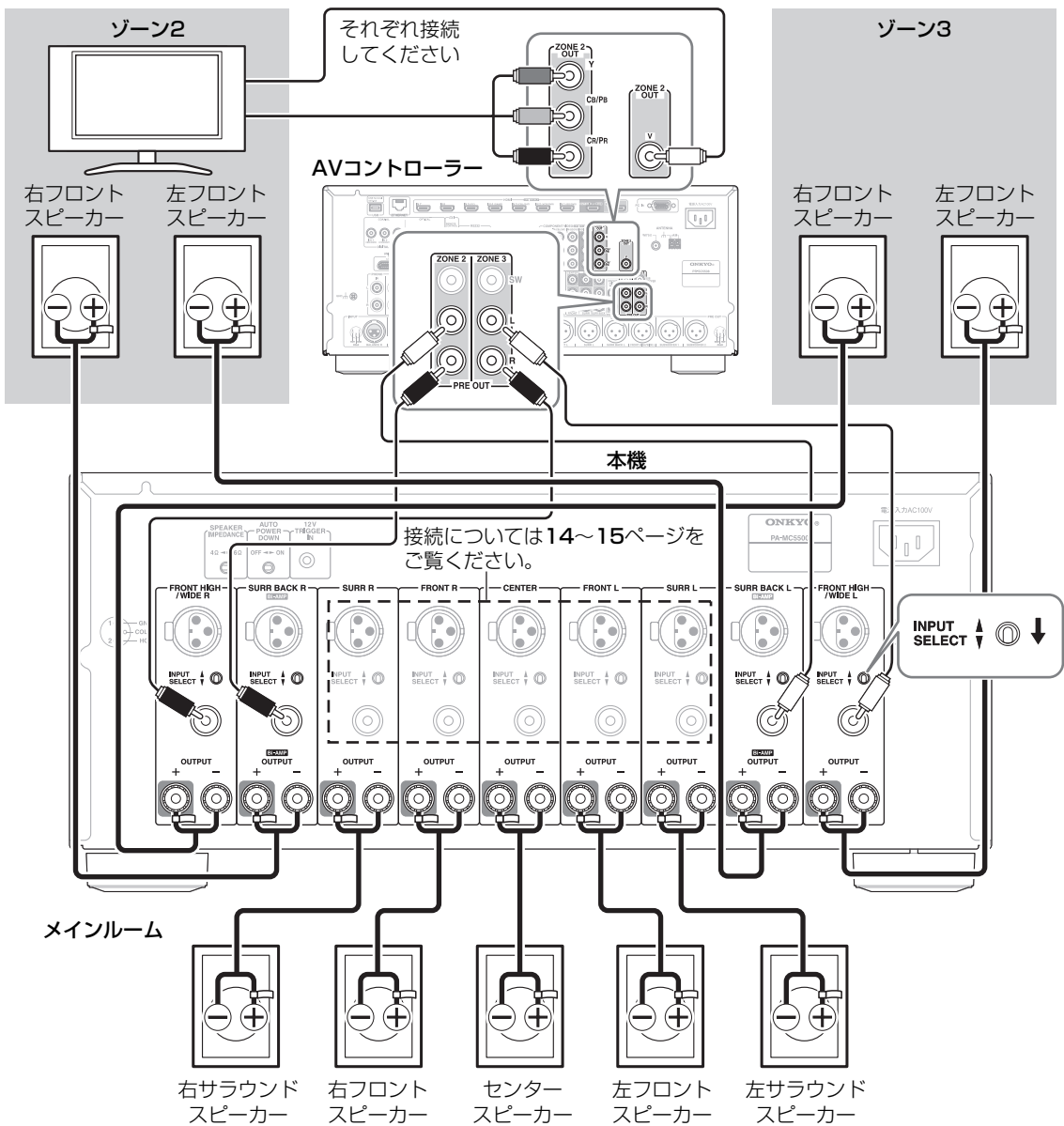
- **バイアンプ接続する場合、スピーカーのツイーター（高音）端子とスピーカーのウーファー（低音）端子をつなぐ、ショート金具を必ず取り外してください。**
- バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

マルチルーム接続をする

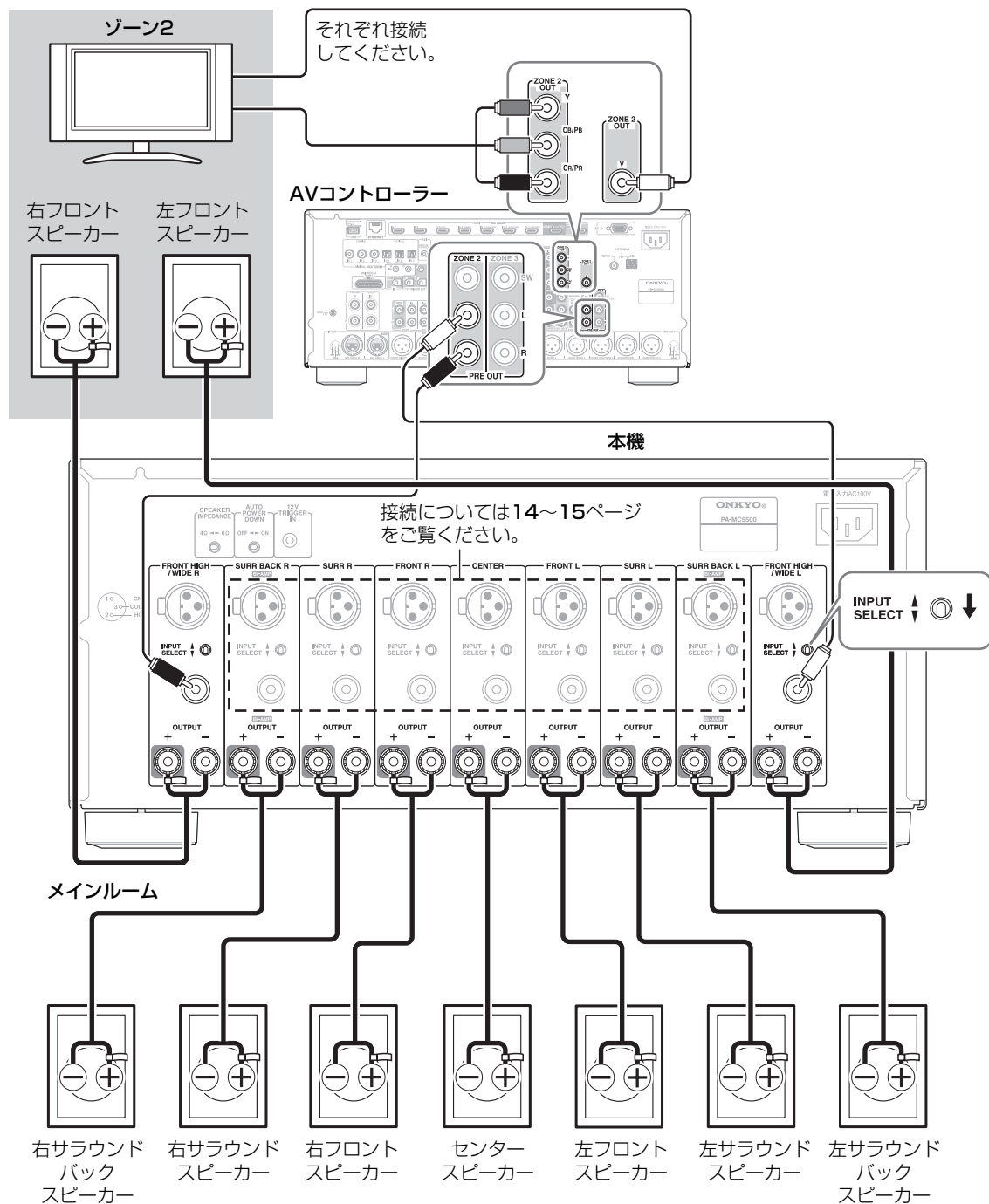
本機では3つのスピーカーシステムを使用できます—メインルームでサラウンド再生、別室（ゾーン2）でステレオ再生、別室（ゾーン3）でステレオ再生。この例は、AVコントローラー PR-SC5508と本機を使用した図で説明しています。詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのAVコントローラーがマルチゾーンの機能があるか確認してください。
- マルチゾーン接続が完了したら、AVコントローラーの電源を入れ、マルチゾーンの設定をしてください。
- お使いのAVコントローラーがマルチルームのバランス出力の機能がある場合、本機にバランス入力することもできます。

■接続1

メインルーム：5チャンネルまでのサラウンド再生が可能です。
ゾーン2：2チャンネルステレオ再生が可能です。ゾーン2ではビデオ再生も可能です。
ゾーン3：2チャンネルステレオ再生が可能です。

■接続2

メインルーム：7チャンネルまでのサラウンド再生が可能です。

ゾーン2：2チャンネルステレオ再生が可能です。ゾーン2ではビデオ再生も可能です。

困ったときは

まず次のようなチェックをしてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
これらの処置をしたり他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーコールセンターまでご連絡ください。

電源が入らない

- 電源コードが本機のAC INLETコネクターに正しく接続されていない。
  →電源コードをAC INLETコネクターに正しく接続してください。
- POWERスイッチの位置が誤っている。
  →POWERスイッチの位置をONにしてください。

電源は入るが音がでない

- 接続が誤っている。
  →スピーカーケーブルの接続を確認してください。
  →プラグをピンジャックにしっかりと挿入してください。
- AVコントローラーからの信号が来ない。
  →AVコントローラーからの入力信号を確認してください。
- 入力切り換え（INPUT SELECT）スイッチが誤った位置にある。
  →入力切り換え（INPUT SELECT）スイッチを正しい位置に切り換えてください。

STANDBYインジケーターが赤く点滅している

- 本機の保護回路が働いています。
  →すぐに本機の電源コードを壁コンセントから抜いてください。POWERスイッチをOFFにし、すべてのスピーカーケーブルと入力ソースを外してください。1時間程度経過した後、再度電源コードを壁コンセントに接続し、POWERスイッチをONにしてください。本機が正常に起動した場合、電源コードを抜き、スピーカーケーブルと入力ソースを再接続してください。本機の電源が入らない場合、電源コードを壁コンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスセンターまでご連絡ください。

PR-SC5508と接続しているとき、本機の12Vトリガー機能が連動しない

- 12Vトリガー端子との接続が誤っている。
  →ケーブルの接続が不完全だと連動しません。正しく接続してください。

ハム、その他の雑音が入る

- 入力ケーブルの接続が誤っている。
  →入力ケーブルをピンジャックやコネクターにしっかり挿入してください。
- 電源コードや電源トランスから発する雑音が入力ケーブルに入って雑音がでる。
  →電源コードや電源トランスを入力ケーブルと離してください。
- ピンコードと電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねている。
  →ハムや雑音の原因となることがありますので、束ねないようにご注意ください。
- 入力端子との接続が不完全または不適切です。
  →各チャンネルの入力端子には、バランス入力端子かRCA入力端子のどちらか使用するほうのみを接続し、INPUT SELECTスイッチをそちらへ切り換えてください。

仕様

アンプ（音声）部

定格出力	
全てのチャンネル	200W（6Ω、全高調波歪率0.08%以下、1ch駆動時、20Hz～20kHz、JEITA）
実用最大出力	全チャンネル 280W（6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA）
ダイナミックパワー	400W（3Ω、フロント） 300W（4Ω、フロント） 180W（8Ω、フロント）
総合ひずみ率	0.05% （Power Rated）
ダンピングファクター	60（前面、1kHz、8Ω）
入力感度/インピーダンス	1V、47Ω（アンバランス） 2V、22Ω（バランス）
周波数特性	5Hz～100kHz/+1dB、3dB
SN比	110dB（アンバランス、IHF-A）
スピーカー対応インピーダンス	4Ω～16Ω

総合

使用電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	800W
外形寸法	435×198.5×458.5mm
質量	23kg

■音声入力

バランス入力	9
アンバランス入力	9

■スピーカー出力

左右フロント、センター、左右サラウンド、
左右サラウンドバック、
左右フロントハイ/フロントワイド

■コントロール端子

12Vトリガー入力	1

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶お名前
- ▶お電話番号
- ▶ご住所
- ▶製品名 PA-MC5500
- ▶できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：＿＿＿＿ 年　 月　 日

ご購入店名：＿＿＿＿＿＿＿＿

Tel.　　（　）

メモ：

- -

- -

- -

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター

☎050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）

サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y1009-1

SN 29400490

* 2 9 4 0 0 4 9 0 *